

学校番号	学校名
73	西有馬小学校
校長名	八幡 博子

学校教育目標	学校経営の目標	今年度の重点目標
<p>○進んで考え学び合う子どもを育てる。 ○互いの良さを認め合う心豊かな子どもを育てる。 ○健やかでじょうぶな子どもを育てる。 ○地域・人と進んで関わる社会性と豊かな感性をもつ子どもを育てる。</p>	<p>「夢と力を育む教育をめざして」 ～調和のとれた人間の育成～ ○基礎的、基本的な学力の定着 よくわかる授業づくり 体験学習の充実 読書推進 ○人権感覚を高める教育活動の充実 発達に合わせた基本的な生活習慣の定着 きめ細やかな児童理解の推進 ○外遊びが好きになる活動の充実 食に関する教育の充実と推進 安全安心な環境づくり 防災教育の充実 ○地域の文化・自然・人材を生かした活動の推進 キャリア在り方生き方教育の推進 小中・小小・幼保小連携教育の推進</p>	<p>・創立40周年記念の年にあたり、地域を知って積極的に関わり、感謝と思いを表現する教育の展開。 ・個々の発達や特性に合わせた教育の充実 ・教師の授業力を高め、よくわかる授業づくり ・お互いのよさを認め合い、自主性を育む教育活動の充実 ・生命尊重 人権尊重教育の推進 ・防災教育の年間カリキュラムに基づく授業の展開 ・児童が行ういじめ防止活動の展開 ・キャリア在り方生き方教育の推進 ・共生共育教育 研究協力校としての実践</p>

評価項目	具体的な取組	実現状況及び課題	具体的な改善策
1 学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・思考力・判断力・表現力の育成のため話し合い活動や表現活動など言語活動の充実を図り、進んで考え学び合う子を育成する。 ・朝読書や読み聞かせを積極的に行い、子どもたちが進んで本に親しみ、充実した読書活動になるよう努める。 ・授業力向上として校内研究を位置づけ、全員が年1回の授業を行う。国語を軸として展開。 ・各学年で行っている教材研究や教材開発の場を研修の場として活用し、教員の校内研修の場を増やす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・読書推進に関する取り組みを年間を通じて行い、子どもがよく本に親しんでいると評価があった。 ・年間7回、外部講師を招いて国語科授業研究会を行った。KJ法など取り入れ、主体的で対話的な授業づくりについて研究を行った。学年会において、教材研究、授業進度、児童実態の把握等が図られた。校内研究の話し合いが充実し、授業改善につながった。 ・興味関心が増すよう工夫した導入を行い、具体物を用意し、体験的な学習を多く行った。対話的な授業を意識して行い、授業が楽しいと答えた児童が増加した。 ・教職員の自主的な職員研修(西有塾)を支援し、ICT活用・体育実技指導などの指導技術の向上が図られ、普段の授業で生かされた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究授業で、お互いの授業を見合い、授業研究に積極的であった。わかる授業、楽しい授業を行うための具体的な指導方法を互いに考え日々の授業で実践できるよう、今後も外部講師を積極的に招き研修会を行っていく。新学習指導要領に向けて授業改善を加速させていく。 ・タブレット8台とウインドウズタブレットが10台あるので授業活用を積極的に進めた。他のICT機器も合わせて、日常的に活用がなされている。どの場面でもどのように使用すると効果が高いか西有塾を充実させ情報交換できるようにしていく。今後も有効な活用を図っていく。 ・道徳教科化に向け、講師を招いて研修会をもち、校内でどのように進めていくか検討している。次年度は、一層研究を進める。また、外国語の指導についても研修を進め、実践を見あい、カリキュラムを急ぎ作成していく。
2 体験的な学習	<ul style="list-style-type: none"> ・校外学習や外部講師をよんでの環境教育、演奏家を招いての音楽体験、土作りや栽培活動など、体験を通しての学びを大切に、実感の伴う学習を目指す。 ・系統的な体験的な学習を実施する。 ・情報モラルに関する学習の系統づけを行って情報モラル教育の授業計画を立て、実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽、スポーツなど多方面の外部講師による授業を積極的に行い、幅広い授業が展開できた。保護者からも、多様で体験的な学習が子どもの意欲を高めていると評価が高かった。今後も、体験的な学習のねらいをはっきりとさせ、効果を検証しながら取り組み、効果を高めていきたい。 ・なし作り、じゃがいもほり、土作りなど地域を活用した授業が展開できた。また、キャリア在り方生き方教育と関連し、「親父の会」の方に仕事に対する思いや学校で学んだことがどのように活かしているかを話していただいた。また、地域の方に昔の自然や暮らしを話していただいたりした。敬老会の方に昔遊びをお手伝いいただいた。今後も、地域とのパイプを太くし、児童の学習に役立てていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立40周年事業において、地域に一層目を向け、地域の協力を得て、児童の主体的な活動を充実させていった。20年ぶりに地域副読本を作成し、地域の方からも好評であった。 ・体験学習の充実・具体物操作を大切に授業を行うためにも、教材研究とねらいを達成する場の設定、地域連携を充実させていく。 ・情報教育において、児童の携帯電話などの実態を調べたものをもとにSNS利用の際、どのような危険があるか、どのように利用していくか授業を行った。保護者と連携を図り、一層効果のあるものにしていきたい。

3	心の教育 いじめ防止・対策	<ul style="list-style-type: none"> ・人権尊重教育の充実を図り、年間指導計画を見直し、学年の発達段階に応じた活動・授業を展開する。 ・命の学習、思いやりを育てる活動を展開する ・様々な場面で児童のコミュニケーション能力が育つ活動を取り入れていく。スピーチ、グループ活動などのねらいをはっきりとさせ指導する。話をしっかり聞くこと、自ら考えを伝えることを大切に活動を展開する。 ・いじめ防止について、講話や児童指導を通じ、計画的具体的な学習活動と支援を行う。児童相互の社会的なスキルを高める活動を重視する。 ・いじめアンケートや効果測定等を用い、児童理解の手段を広げる。また、教員相互の児童に関する情報交換を活発に行う。 ・共生＊共育プログラムを推進し、効果測定を年間2回行い、見取りの研修を行うことで職員の子どもの理解の手段を増やしていく。今年度共生共育研究協力校として、研修を強化し、実践していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、計画的に命の学習を展開した。今年度はがん教育にも取り組み、教育委員会の協力も得て、講師を招き授業を行った。テレビでも放送されることが決まり、地域の方々から高い評価をいただいた。また、誕生学の講師も招き、授業を行った。保護者の参観もできるようにしたため、家庭と協力して実践できた。 ・多様な場面でスピーチや感想交流で人前での発表に自信をつけてきている。学習発表会の形をブース型にするなど、多様な発表形態をとることで発表力を伸ばすことができた。 ・共生＊共育プログラムを実施し2回の効果測定と外部講師を招き研修を行った。効果測定の結果を生かしてプログラムを選んだ実施が確実にできるようチェックし、指導を行った。 ・いじめアンケートは年に2回行い、多角的な他の方法も使い、児童理解に努めた。また、いじめ防止対策委員会のチーム対応により児童間のトラブルについて早期対応することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度創立40周年記念事業をするにあたり、子どもまつりを実施しなかったため、次年度から復活させる。自主性、主体性の育成のねらいを堅持し、限られた時数の中でどのように実施するかが課題となる。 ・共生＊共育プログラムのプログラム内容と時期、効果について調査しチェックを行った。今年度は、研究協力校としてデータの分析を行い、どのクラスも児童の実態に合わせ、PDCAのサイクルでプログラムを選び実施できるようにした。次年度も研修と話し合いの時間をもち、引き続き充実させていく。 ・人権尊重教育の年間計画の見直しを継続的にを行い、キャリア在り方生き方教育との連動させ、実行していく。 ・いじめの未然防止の一方法として、児童会活動として子どもたち自身からいじめ防止の提案が起き、ポスターや標語の募集・挨拶運動が展開された。次年度も一層子どもたちからの提案が湧き上がるよう支援していく。
4	児童理解 特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> ・児童指導、教育相談や特別支援に関わる「児童支援センター」の活用を通して、よりよい体制を構築していく。 ・特別支援教育についての研究、研修を深めることで、一人一人の児童に合った指導を行う。 ・行き渋り・不登校の実態把握、保護者連携を進めるとともに、外部機関との連携を図る。 ・児童支援コーディネーターの配置を受け、学校内での報告・連絡・相談のシステムの構築とトラブル予防に向けた話し合い・トラブルの際の解決に向けた話し合いを的確に行う。またチーム会議が実践的に動けるように指導していく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・個別のニーズに合った支援教育の充実を図り、インクルーシブ教育の推進のため、特別支援級を「児童支援センター」として位置づけている。毎月、気になる児童を部会で話し合い、外部機関の利用も含めて対応を考え、コーディネーターや相談担当が主となって進めることで、担任が抱え込まないようにすることができた。 ・支援級児童の交流学級で過ごす時間を充実させるため担任同士の連携を進めた。また、通常級で困り感がある児童も支援センターで個別指導が受けられるようになり、支援級でのサポートを希望する保護者も増えてきている。 ・行き渋る児童に対して、養護教諭を中心に担任や級外の教職員がチームを組み、サポートしている。また、子ども支援室、区教育担当、SSWと連携をとり、柔軟で細やかな対応をとることができ、保護者からも評価をうけた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「児童支援センター」の活用方法を考えながら、体制作りを行ってきた。今後も共通理解が図られるよう定期的な会議や研修を行っていく。さらに、インクルーシブ教育についての学習も進め、本校の土台となる支援教育の形をつくっていく。 ・外部機関との連携を積極的に進めた。 ・不登校や不適応の対応は、初期の段階が大切である。児童と保護者の思いに寄り添って、温かい居場所づくりを進めていく。 ・配慮の必要な児童の特性の理解を職員が深めると共に、保護者への啓発も進んで行っていく。
5	自主的・主体的な 活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ・創立40周年児童実行委員会を立ち上げ、子どもの目線や発想を大切に周年事業を展開する。 ・委員会、クラブ活動の企画運営について教師が適切に支援をしながら児童の自主的活動に任せると、自発的な行動力とやり遂げる強い心を培う。 ・児童の発達に合わせて学年や学級の活動や係活動を自主的に運営する力を育成していく。 ・運動会や総合的な学習などにおいて、経験を生かし、自ら選択した活動に取り組ませ、達成感や満足感を味わえるようにする。 ・異学年縦割り活動を通して、思いやり・協力・奉仕の気持ちの育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・創立40周年記念式典とそれに関連する諸行事や運動会で全校が一体となり主体性を育むことができた。委員会活動やクラブ活動でもアイデアを生かし取り組むことができた。 ・行事だけでなく、学級での学習や生活の場面でも、児童の主体性を大切にする思いが全職員の共通のものとなってきている。その成果を機会あるごとに賞賛したり、伝えたりすることができた。また、児童アンケート回答からも係や掃除に進んで取り組んでいると回答した児童が増加した。また、友達と仲良くしていると回答した児童が増加した。 ・縦割り班を作り異学年交流が軌道に乗った。6年生が中心となって短時間ではあるがゲームや集会、交流給食を行った。学校評価児童アンケートでは自己肯定感に関する意識の向上が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的な活動の中で、他者を意識して計画を立て実行するよう、児童には、自分を大切にす気持ちと共に相手を大切にすることを今後も伝えていきたい。 ・児童運営委員会も学校教育目標から、児童の視点で年間の学校テーマを考え活動している。大いに賞賛し、学校便りなどでも紹介した。継続して保護者・地域へアピールを行っていく。今後も児童の発想を大切にして、指導・支援を行っていく。 ・学校評価委員会・学校教育推進会議に児童会運営委員児童が出席し、取り組みを説明した。自主的な取り組みと発言内容・態度を大いに賞賛された。
6	健康・体力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・給食時間の食べ物クイズや栄養教諭による授業などを通して、食に対する意識を高めたり、衛生面に気を配ることのできる態度を育成する。また養護教諭による授業を通し、一人ひとりの違いを知り、安心して成長できるようにする。 ・異学年によるスポーツ活動や朝の学年・学級集会を活用し、仲間とともに元気に過ごす楽しさを感じさせる。また、キラキラタイムでの遊びの紹介を通じ、遊びの幅を増やしていく。 ・除草活動や清掃活動を通し、みんなで学校を大切にす奉仕の精神と態度を育成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食時間の食べ物クイズや栄養教諭による授業などの活動を通して、食に対する意識が高まった。学校評価アンケートでも、保護者から子どもの食べ物に対する関心が高まったという評価をいただいた。また、ホームページで食べ物クイズとメニューを毎日配信し、親子で考える機会にすると保護者から好評であった。 ・キラキラタイムの活用を進め、いろいろな遊びに興味を持って取り組む子が増えた。また、体育委員会の休み時間のスポーツコーナー活動も効果を上げた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・健やかな体育成委員会で、スポーツ集会の更なる充実を図る。今後も、継続的に運動をする児童がふえるイベントを企画していく予定である。 ・キラキラタイムについての活動の様子を保護者に伝えてきたが、今後も、活動のねらいや様子を積極的に発信して、保護者の協力を得ていきたいと考える。 ・異学年縦割り活動の良さや改善点を洗い出し、児童の自己肯定感や達成感に結びつくよう工夫していく。

7	危機管理 防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・不審者対策訓練や職員研修、設備の改善を図る。 ・4月、8月の震災を想定した引き取り訓練や防犯防災マニュアルの活用により、児童、保護者、職員の危機意識を高め、備えを図る。 ・煙・消火器体験・救助袋での避難の見学など地震に関する総合防災訓練時に行い、幅広い防災教育を進める。 ・安全安心会議を年2回行い、通学路の安全点検と地域との防災連携を図る。 ・体験的な防災教育だけでなく、系統的な年間計画に基づいた防災学習に取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> ・予告なしの休み時間の地震による避難訓練を実施し、想定される災害時の対応のより実際に近い状態での避難に向けて幅を広げることができた。 ・防犯訓練では、実際に警察の方に不審者役となってもらい、職員の対応と児童の避難を行い、警察のアドバイスもいただいた。 ・町会やPTAと協力して、避難・安全確保・避難所開設に向けての話し合いを行った。 ・防災教育カリキュラムに従い授業を行った。高学年では、時間と場所を想定して実際の行動を考えて作成する「防災巻」の授業を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・6年間で体験する活動を精選していくとともに、防災教育カリキュラムの見直しを図り、自分で自分の身を守る態度の育成に努めていく。 ・災害時を想定して、予告なし訓練や放送が使えない時の訓練を行った。 ・今年度は、宮前地区の総合防災訓練に学校と地域の防災部と一緒に参加し、問題点の洗い出しをする方向で動いている。 ・個人情報の管理に関して、保管庫の管理、持ち出しの規則徹底等チェックと指導を行った。繰り返し、注意喚起を促していく。
8	情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便り・学年便りを見やすい紙面に工夫し、子どもたちの姿を伝え学校の約束や周知することなども丁寧に伝えて充実を図る。 ・学校説明会、学校報告会、授業公開等の充実を図る。 ・学校教育推進会議、代表委員会等で子どもたちの願いを把握するとともに、学校評価の改善を行う中で、保護者や地域の方への理解を深め、評価を学校運営に生かすようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育推進会議を年3回開いた。また、重点である外部講師を活用した体験的な学習場面や学習発表会、通常授業の様子も見ていただいた。 ・学校報告会の日程を土曜日にし、学校評価アンケートの内容・分析など多くの父親を含む保護者に説明をすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページの保護者の閲覧が多い。子どもたちの学校生活場面を紹介した。学年によって、掲載数の差があったため、よりタイムリーに発信できるよう、簡素化を図り、担当の指導も行っていく。また、保護者から、レイアウトや色遣いが古い感じがすると指摘をいただいたため、次年度は、レイアウト変更など検討し、より見やすいホームページに変えていく。 ・地域行事の参加について、町会の協力も得て、広報し、教職員も率先して参加した。
9	学校環境改善	<ul style="list-style-type: none"> ・月一回の安全点検にもとづき、迅速に補修等を行い環境を整備する。 ・保護者や児童、職員、地域などからの学校環境改善の要望も把握し積極的に改善を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・校舎の老朽化にともない、修繕が必要な箇所が多く発生した。迅速に委員会に申請しその都度補修を行っている。 ・校舎の外壁工事や大型蓄電池設置などに向けて、検討を進めている。保護者や地域の理解を得ながら、安全に環境改善を進めていく。 ・PTAの協力を得て大型遊具の補修や地域町会の協力を得て、防犯カメラの設置をすることができた。 ・4年生以上の教室の着替え用カーテンの設置など、児童数の増加に向けて改善を行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・職員文書(個人情報以外)の一元化(ナス)を取り入れている。校務支援システムの活用を積極的に行った。一層業務の効率化を図っていく。 ・施設の老朽化に伴い、校庭の遊具をはじめ、校舎内外の修繕箇所が多くある。徹底した安全点検等、施設管理を行っている。
10	社会性育成 地域連帯	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリア在り方生き方教育の推進を図る。 ・保護者や地域協力者と連携し、地域の教育力を導入し、価値ある体験のできる場をつくり、地域の人々の学校への期待と信頼に応える教育を進める。 ・防災対策など地域と連携して、備えを行う。 ・幼保小、小小、小中の連携を深める活動を計画していく。 ・隣接する有馬中学校と協議し、お互いの児童生徒を見合う機会と交流活動を積極的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1年ジャガイモ、2年地域めぐり、3年梨の体験学習を行った。また、1年昔遊び、3年有馬の昔、4年福祉体験、5年土作り、6年キャリア教育において地域の方の協力を得た。有馬地区町会の盆踊りに6年生が有馬八木節で参加した。 ・有馬中学校の合唱コンクール優勝クラスの合唱を聴く音楽教室、ブラスバンド部リハーサル見学、6年生の中学校体験で交流した。 ・川崎北高等学校の吹奏楽部に演奏していただき交流を始めた。 ・有馬小、鷺沼小、西有馬小、有馬中の職員が一堂に会する交流会をもつことができた。お互いの情報を交換することができ児童の育成に役立てることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣に保育園、幼稚園が新設され、交流を行っている。園長との懇談や新1年の情報交流を積極的に行っている。さらに、交流を行って行きたい。 ・学校のカリキュラムの中から、キャリア在り方生き方教育を系統立てた。キャリア在り方生き方ノートの使用を含め、どの単元・領域で実施したか、どのようにノートを利用したか等、チェックシートに記録を取っていった。2年間分の資料を基にカリキュラム編成を行った。一層の具体的な推進を図る。

学校関係者の評価	今年度のまとめ・次年度へ向けての取組
<p>◆学校教育推進会議・学校評価委員会①: 児童運営委員の目標紹介、学校経営方針説明、授業参観 ○委員からは「授業では落ち着いた態度で学習する様子が見られた。」と評価をいただいた。また、創立40周年に向けて協力していきたいと励ましの言葉をいただいた。</p> <p>◆学校教育推進会議②: 児童会運営委員の年間反省、児童40周年実行委員会の取り組み説明、学校経営報告、授業参観 ○「創立40周年記念式典が素晴らしかった。地域への思いがよく表現されていた。」とたいへん高い評価をいただいた。 ○児童会の一年間の取り組みに質問があり、堂々と受け答える児童の姿といじめ防止に向けた取り組み内容・挨拶運動について大いに褒めていただいた。</p> <p>■学校評価アンケートから: 学習が「楽しい」が90パーセント以上。「楽しくない」という児童が約8パーセントいることをしっかりとうけとめ、今後、教師が授業力向上につとめ、学習意欲の湧く授業展開を進める。また、「友達と仲良くしている」「友達の意見をよく聞いている」「係や委員会など当番の仕事をしっかりやっている」「学校は楽しい」など回答などほぼすべてにわたり、非常に高い結果であることへの評価をいただいた。</p>	<p>○創立40周年記念事業の年であり、地域に目を向け、今まで以上に地域学習をいろいろな教科・総合的な学習で展開した。子どもの意識・関わり方が変容していった。式典では、保護者・学校・地域に向けて、学んだことや感謝の思いを十分に表現できた。参観された方々から、たいへん高い評価をいただいた。周年事業を行うにあたり、子どもたちが学級・学年での協力することの楽しさや考えたことが実現する喜びを感じて自己肯定感の上昇したこと、また、教職員の意識改革ができたことが大きい。</p> <p>○特別支援教育の研修を継続的に行い、発達障害を含め、不適応行動を起こす児童への対応について多くの職員が理解し、児童の支援にあたっている。支援を必要とする児童に対しての支援を充実させるために個別のニーズに対応する教育をめざし、児童支援センターを核として、保護者の理解も得ながら、児童一人一人が安心して意欲的に学習を進めていける体制にしていく。また、外部機関との連携を一層図っていきたい。</p> <p>○教師一人一人の授業力向上のために、来年度も校内授業研究の充実を図っていく。また、研修について、経験の浅い職員の願いを探り、組織の中でミドルリーダーが中心になって具体的に子どもの支援・指導に役立つ内容等企画させていきたい。情報モラル教育のカリキュラムづくりも進めていきたい。</p> <p>○かわさき共生＊共育プログラムの進め方や効果測定の活用方法について研修してきた。今後、年間計画でのPDCAを意識させ、いっそう活用を図っていく。</p> <p>○いじめ防止対策会議が機能している。児童間のトラブル・いじめに対し、チームで早期発見・早期対応を一層行っている。児童支援コーディネーターの配置に伴い、一層動きやすい柔軟な組織づくりができた。組織的な対応、特に予防の観点からの取り組みを一層徹底していく。</p> <p>○異学年縦割り活動の中で自主性・思いやり・達成感が育まれた。特に高学年の児童の意識の変化も大きかった。今後も児童のアイデアを生かした縦割り活動を進めていく。</p> <p>○キャリア在り方生き方教育の実施にあたり、研修を行いながら、PDCAサイクルを重視し、一層の推進を図っていく。積み上げられた各学習の資料を基に西有馬小のカリキュラムの見直しを行っていく。次年度は、実際の授業を見あって一層の改善を図っていく。</p>